

## 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2007年11月1日

社会福祉法人バオバブ保育の会  
バオバブ保育園 御中

〒 160-0004

所在地 東京都新宿区四谷1-9三宅ビル6階

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-3352-6730

代表者氏名 清水 康之 印

以下のとおり評価を行い、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたしました。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野			
	①	H0404092	<input checked="" type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	②	H0303063	<input checked="" type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	③	H0304082	<input type="checkbox"/>	福祉	<input checked="" type="checkbox"/>	経営
	④		<input type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	⑤		<input type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
	⑥		<input type="checkbox"/>	福祉	<input type="checkbox"/>	経営
福祉サービス種別	認可保育所					
評価対象事業所名称	バオバブ保育園					
事業所連絡先	〒	206-0002				
	所在地	東京都多摩市一ノ宮1-20-3				
	TEL	042-375-4640				
事業所代表者氏名	山根 孝子					
契約日	2007年	5月	31日			
利用者調査票配布日(実施日)	2007年	6月	15日			
利用者調査結果報告日	2007年	8月	25日			
自己評価の調査票配布日	2007年	6月	15日			
自己評価結果報告日	2007年	8月	25日			
訪問調査日	2007年	9月	5日			
評価合議日	2007年	9月	20日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたり、理解促進のため、調査票の配付時に調査の趣旨や第三者評価制度の概略を記した依頼状を添付するとともに、園内掲示用のポスターを作成した。また調査開始後に提出御礼と未提出者への呼びかけをかねたチラシを全対象者に配付し、提出促進の一助とした。事業所職員対象の説明会では、所定の説明事項のほか、解釈の困難ないくつかの評価項目についても説明するとともに、自己評価実施にあたっての質問を随時受け付ける旨を伝え、よりの確な自己評価実施に配慮した。					

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯98世帯を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は標準様式に準拠した。調査票に添付の封筒による機関への直接郵送にて回収し、調査結果は選択式設問・自由回答ともすべて園に報告した。なおその際、自由記述式設問については、回答者の匿名性に配慮した上で、極力原文を尊重して結果に掲載した。

利用者総数(人)	98
調査対象者数(人)	98
有効回答数(人)	73
利用者総数に対する回答者割合(%)	74.5

**利用者調査全体のコメント**

総合的な満足度は「大変満足」「満足」の順に59%・30%の計89%。項目別でも15問中11問(「食事メニューへの配慮」「十分な戸外活動」「急な利用時間変更への対応」「体調変化への対応」「行事日程への配慮」「子どもや育児に関する相談対応」「保護者の考えを聞く姿勢」「プライバシーの保護」「子どもを大切に思う姿勢」「職員の礼儀正しく丁寧な対応」と「入園時の説明」)で80~90%台の高い数値を示し、その他の項目でも6~7割の支持を得ており、「安全対策」のみ半数を下回った。自由意見では、食事や行事を含めた本園の保育サービス全般に対する賛辞や信頼のほか、「親も子供も安心できる」「親も育てられ支えられており仲間作りもできる」など園と保護者及び保護者同士の関わり親密さや、職員の気さくで丁寧な対応などを支持する意見が複数寄せられている。課題や指摘としては、個別の具体的な要望のほか、安全対策や衛生面に関する意見、多忙な職員を気遣う声などが散見された。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	71	2	0	0
有効回答73のうち71名の回答者が「はい」を選択しており、「いいえ」と答えた回答者はいない。設問に付随する自由意見でも、安全・安心に配慮した食材選択、子どもの体調や発育、アレルギーへの細やかな配慮など、本園の充実した食事サービスをうかがわせる感謝や賛辞が複数挙げられており、計17件の意見のすべてが肯定的な内容であった。				
2. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	71	2	0	0
前問と同じく71名の回答者が「はい」を選択し、「いいえ」との意見は見られなかった。自由意見でも園庭遊びの他、「公園ばかりではなく多摩川で土手すべり等、色々体験させてくれる」など、園の立地や周辺環境を活用した多彩な戸外活動について、多くの支持が寄せられた。頻度についても「十分すぎるくらい」「積極的」などの声が多く見られる。				
3. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	64	5	0	4
9割弱の支持を得ており、「いいえ」との回答はなかった。自由意見でも柔軟な対応に対する感謝の声が複数寄せられており、ネガティブな意見は特に見られなかった。				

4. 子どもの体調変化への対応(処置・連絡)は、十分か	62	8	2	1
85%の回答者が「はい」を選択している。自由意見では、保護者への速やかな連絡やお迎えを強制しない園の姿勢について、支持する声が複数挙げられている一方、体調やケガなどのチェックの仕方や職員間の連絡について、課題を挙げる意見も散見されている。				
5. 安全対策が十分取られていると思うか	35	32	5	1
「はい」が半数をわずかに下回り、「どちらともいえない」「いいえ」がやや多くなっている。自由意見では、好意的な声も見られるものの、総じて改善を望む意見が多く、特に衛生管理面と外部侵入への懸念を示すものが散見されている。なお衛生管理については総合的意見(前掲「利用者調査全体のコメント」参照)でも同趣旨の記述が見られている。				
6. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	63	9	1	0
86%の回答者が「はい」を選択している。自由意見でも、夜間や日曜日を中心に行事を設定する園の方針に対する感謝の声が複数寄せられている。ただし、行事の頻度については、「多くて負担に思うこともある」など、必ずしも現状を肯定しない旨の意見も散見された。				
7. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	66	6	1	0
「はい」が9割を占めており、自由意見でも、相談しやすい雰囲気や日頃のコミュニケーションに対し、感謝や信頼を寄せる声が複数見られる。ただし、職員が忙しそうで声をかけにくいなど、必ずしも思いどおりのコミュニケーションが可能ではないとの旨の意見もほぼ同数挙げられている。				
8. 保護者の考えを聞く姿勢があるか	71	2	0	0
有効回答73のうち71名の回答者が「はい」と答えており、「いいえ」を選択した回答者は見られなかった。計6件寄せられた自由意見でも、園の対応や姿勢に対する感謝や賛辞が多くを占めている。				
9. サービス提供にあたって、利用者のプライバシーは守られているか	61	7	1	4
84%の回答者が「はい」と答えている。自由意見は計3件で、特筆すべき意見や複数挙げられた意見などは見られない。				
10. 一人ひとりの子どもは大切にされていると思うか	65	7	1	0
9割弱の回答者が「はい」を選択しており、自由意見でも、職員配置に関する意見も散見されるものの、半数以上は肯定的な意見となっている。				

11. 職員の対応は丁寧か	60	11	1	1
82%の回答者が「はい」と回答している。自由意見でも、一部の職員について課題を指摘する声なども見られるが、職員の挨拶や丁寧な対応に関して、支持する旨の意見が複数挙げられている。				
12. 要望や不満を事業所に言いやすいか	49	20	4	0
「はい」が7割弱、「どちらともいえない」が2割強という回答分布で、計8件寄せられた自由記述においては、意見箱について、必ずしも使いやすくないとの意見が2件挙げられている他は、肯定的・否定的とも、特に目立った意見は見られていない。				
13. 利用者の要望や不満はきちんと対応されているか	58	11	2	2
8割弱の回答者が「はい」と答えており、計6件寄せられた自由意見は園の真摯な対応に対する感謝や支持を表す意見で占められており、ネガティブな内容の意見は見られなかった。				
14. 第三者委員など外部の苦情窓口にも相談できることを知っているか	52	4	16	1
「はい」が7割、「いいえ」が2割となっている。自由意見は「知っている」との旨の意見が計3件挙げられているのみである。				
15. 【過去1年以内に利用を開始し、利用前の説明を受けた方に】 サービス内容や利用方法の説明はわかりやすかったか	17	2	0	0
該当する回答者19名のうち、9割弱が「わかりやすかった」と答えており、計2件の自由意見でも否定的なニュアンスの声は挙げられていない。				

**I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)**

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <span style="float: right;">評点( A )</span>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <span style="float: right;">○非該当</span>	
●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <span style="float: right;">○非該当</span>	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		



I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ2	
2	経営における社会的責任	
	サブカテゴリ1	
	社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	
	評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる
	○非該当	
【A+の取り組み】		
○あり ●なし		
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	
○非該当		
●あり ○なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	
○非該当		
【A+の取り組み】		
○あり ●なし		
サブカテゴリ2		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある		
評点( A )		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	
○非該当		
●あり ○なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	
○非該当		
【A+の取り組み】		
○あり ●なし		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	<p>評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している</p> <p style="text-align: right;">評点( B )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など) <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<p>【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</p>	
	<p>評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている</p> <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<p>【A+の取り組み】 <input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</p>	
	<p>カテゴリ2の講評</p>	
	<p>「基本保育計画」の冒頭に「バオバブ職員として心がけたいこと」として10項目を明示し、より具体的に職員として注意すべきことも明確に記述されている。さらにこの基本保育計画は全職員(一部非常勤職員を除く)に配付・周知されており、年度当初の職員会議において園長が説明して徹底を図るようにしている。また多摩市の子ども家庭支援ネットワーク連絡会(児童相談所、保健所、民生児童委員、学校、医師などによるネットワークケース会議)に参画し、各機関での協力体制が整備されている。</p> <p>ホームページの活動の様子や献立紹介を毎日更新し、地域向け情報誌「ブレイメンの庭から」を配布して情報公開している。他園などから本園を見学に来られる方は常時受け入れ(年間約10件)、食育に関するメディア(テレビや雑誌)の取材を受ける等、積極的に公開している。「子育てひろばブレイメン」は週2回開放し、昨年度はのべ約1,300組が利用しており、その際におやつやレシポの紹介や保健や育児に関する相談受付とアドバイスなどにより、専門性の地域還元役に役立っている。また「子育てボランティア」の講座に職員を派遣した実績がある。</p> <p>「基本保育計画」中に「体験ボランティアの受け入れ」の項目があり、この中で当園の考え方が示され(昨年度受入実績6名)、総務が担当者となって受け入れているほか、ボランティア本人には「保育体験ボランティアの方へ」を配付してオリエンテーションを行っている。ただしプライバシー保護に関しては触れられておらず、口頭での伝達にとどまっている。また、市主催の「子育てボランティア」の実習園として昨年度2名程度を受け入れている。</p>	

**I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)**

No.	共通評価項目	
	カテゴリ3	
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
	サブカテゴリ1	
	利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
	評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している <p style="text-align: right;"><input type="radio"/>非該当</p>
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	カテゴリ3の講評	
	<p>苦情解決第三者委員が設置され、「入園のしおり」に苦情解決の仕組みが記載されて玄関にも掲示され、苦情受付ボックス及び受付用紙も設置されている。利用者アンケートにおいても7割以上の利用者が苦情解決制度の存在を認知していることが推察されるが、苦情受付の手法に関する要望も散見されるため、今後の取り組みが期待される。また、実際に寄せられた苦情や要望に関しては「インシデント報告書」などの記録を残して職員会議や毎日ミーティングにおいて討議・報告し、連絡ノートや口頭・面接などの方法により利用者にはフィードバックしている。</p> <p>行事などの際には終了後にアンケートを取ることもあるが、現在のところ利用者意向調査のようなものは実施していない。日常の保育に関する利用者意向は連絡ノートなどの活用によって把握し、収集された情報は毎日ミーティングなどの場における共有によって活かされているが、現在のところではそれらを集計したり分析したりといった取り組みまでは行われていない。アンケート調査も行っていく必要もあるかも知れない、とのコメントがあった。</p> <p>現在のところ地域のニーズ調査のようなものは実施していないが、「子育てひろばプレーメン」や一時保育「のうさぎ」におけるヒアリングや、子育て講座におけるアンケート実施などによってニーズ把握を行い、それを後の地域活動事業に活かしている。福祉業界全体の情報収集に関しては情報誌や保育団体からの情報をベースにしており、重要な情報はリーダー会議などを通じてコピーを配付するなどして、周知・共有化に努めている。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ4	
4	計画の策定と着実な実行	
	サブカテゴリ1	
	実践的な課題・計画策定に取り組んでいる	
	評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している <span style="float: right;">評点( B )</span>	
	評価	標準項目
	○あり ●なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	2. 年度単位の計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
	●あり ○なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>	
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している <span style="float: right;">評点( B )</span>		
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている <span style="float: right;">○非該当</span>	
●あり ○なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>	
●あり ○なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>	
●あり ○なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している <span style="float: right;">○非該当</span>	
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ●なし</span>		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる	
	評点( B )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている
	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	サブカテゴリ2	
	利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
	評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発生した事故や事故につながりやすい事例などをもとに、再発防止・予防対策を策定している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 再発防止・予防対策の実践に向けて、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
	カテゴリ4の講評	
	<p>中長期計画という形では策定されていないが、「バオバブの保育の今-34年の歴史の層の上に-」や「園の運営体制の見直しについて」等の文書で長期的なビジョンが提示されており、理事会等で報告されているものもある。事業計画は法人のものと園のものが策定されて事務室に保管され、保護者や職員からの開示請求に応えられる状態になっている。短期的活動についても「委員会・係担当一覧表」が定められ、計画的に会議が行われてスケジュールも策定されているが、「目標」や「達成度合い」の明示と評価に関しては現状では不足している面がある。</p> <p>年度ごとの事業計画や行事計画については、毎年の手順がほぼ慣例的に定められているが、日常の保育の中で判断を要することがあった場合には、リーダー会議などで判断が行われることが慣例的に認識されているのが現状である。また、現場を中心とした行事計画などにおいては現場職員や利用者の意見を収集して策定しており、年間日程などの策定にあたっては現場の職員の意見が反映され、環境整備や職員体制、または保護者との関係構築など、職員や利用者の要望・提案が反映されている実際の事例も確認された。</p> <p>「オープンな保育園であること」を当園の伝統として堅持しつつ、利用者の要望もあり、ハード面では、改修については積極的に取り組んで安全に対する取り組みも行っている。「基本保育計画」の中に安全に関する各種マニュアルが示されており、その中で手順と責任が明確化されている。また、事故報告書や「インシデント報告書」を作成して毎日ミーティングにおいて報告、共有に取り組み、再発防止に努めているほか、「安全防災委員会」においては散歩コースの危険箇所をリストアップしてマニュアル化したり、訓練を計画して実施したりしている。</p>	

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ5	
5	職員と組織の能力向上	
	サブカテゴリ1	
	事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる	
	評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>	
	評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる <span style="float: right;">評点( B )</span>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している <span style="float: right;">○非該当</span>
	○あり ◎なし	2. 職員一人ひとりの職務能力に応じた、個人別の育成(研修)計画を策定している <span style="float: right;">○非該当</span>
	○あり ◎なし	3. 個人別の育成(研修)計画を踏まえ、OJTや研修を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	4. 職員が研修に参加しやすいように、勤務日程を調整している <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目 サブカテゴリ2	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点( A )
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点( A )
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
カテゴリ5の講評		
<p>求められる職員像は「基本保育計画」の中に謳われており、職員のすべての行動規範となっている。また現在「ファシリテーション・プログラム」の策定に着手しており、来年度からの運用に活かしていく予定としている。職員採用に際しては面接・作文・実技などが行われるが、法人が求める人材像に合致するか否かという点に重点をおき、ほぼ希望に沿った採用ができているとのことである。また職員配置については11月頃に異動希望や将来的な希望を文書で聞いた上で12月頃に個人面談を実施し、人事委員会及び職員会議で決定することとしている。</p> <p>職員個々の育成計画は策定していないが、園長との職員個人面談(12月頃)のほか異動希望や配置希望などの文書を通じて職員の希望や目標を把握し、人材育成に役立てている。また、研修参加に関しては法人内部における研修(合同研修・個別研修など)のほか外部研修にも参加しており、提出された研修報告書は全職員(常勤職員)に配付されたり、研修報告会で発表されるなどして共有化が図られている。</p> <p>「基本保育計画」の中に各種マニュアルが整備されており、その中で手順が示されることで結果的に職員の判断可能な範囲も定められている。現状では園長面接のほか異動希望や配置希望、「前期のまとめ」「後期のまとめ」「1年を振り返って」などの文書によって個々の職員の育成に取り組んでいるが、トータルでの人材育成システムが完成しているわけではない。その必要性から、現在新しい人材育成制度の構築に取り組み始めているとのことであった。新しい人材育成制度は来年度を目処に導入していくことを目標としている。</p>		

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ7	
7	情報の保護・共有	
	サブカテゴリ1	
	情報の保護・共有に取り組んでいる	
	評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している
	【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している		
評点( A )		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている	
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
カテゴリ7の講評		
PCは6台、一部LANが構成されているが、重要データはロックされている。また、文書データに関しては一部管理に改善を要すると思われるものもあるため、より一層の徹底が望まれる。		
個人情報の利用目的は、明示されているものもあるが、一部示されていないものもあるとのことであった。ただし、写真の利用時やメディアの取材などについても承諾書を受けており、承諾されたもののみを使用することとしている。また、個人情報保護規程が策定され、開示請求に関しても規定されており、ボランティア・実習生にはオリエンテーションで口頭で説明しているとのコメントがあった。		

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ8	
8	カテゴリ1～7に関する活動成果	
	サブカテゴリ1	
	前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果	
	昨年度の法人内の他園の事例を参考にして、今年度職場研修会(4園合同研修会)を開催し、特に安全管理とリスク管理について学ぶことに取り組んでいる。その結果安全確保とリスク防止に関する意識向上、取り組みの発展に結びついている。また、本年度より「毎日ミーティング」を実施して、伝達事項の迅速な共有に取り組んでいる。	
	サブカテゴリ2	
	前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果	
	今年の初めに「何のために記録を書くか」のテーマで職場研修会(4園合同研修会)を開催し、各種様式の整備や記録の推進に取り組んでいる。現場の書類の記録にも改善が見られ、今後も繰り返してフォローアップのための研修会を継続していくことを予定している。	
	サブカテゴリ3	
	前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
	評価項目1	
	前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
	改善の成果	
	一昨年度から計画的に、年間保育計画や月間保育計画の様式改善・統一に取り組んでおり、同時にそれらの計画の進捗管理と改善に取り組むための「保育会議」を定例化することによって、意識的に共有していく体制が確立された。また、IT環境に関しても電子メールの活用などを積極的に推進し、業務の効率化が推進されている。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ4	
事業所の財政等において向上している		
評価項目1		
財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
改善の成果		
財務状況を意識して職員配置などを検討し直す等、コスト管理に取り組んでいる。また今後も人事制度の再構築などに取り組んでいくこととしており、来年度導入に向けてすでに着手している。		
サブカテゴリ5		
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している		
評価項目1		
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している		<input checked="" type="radio"/> A+ <input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」		
改善の成果		
利用者からの要望もあって、設備面での充実・改善に取り組み、防犯・安全の観点からも成果を上げている。		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	
評価項目1 保護者等に対してサービスの情報を提供している <span style="float: right;">評点( A )</span>		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	◎あり ○なし	2. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	◎あり ○なし	3. 保護者の問い合わせや見学の見学があった場合には、個別の状況に応じて対応している
【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>		
サブカテゴリ1の講評		
<p>子育てをする保護者に向け、法人運営の4保育園合同のホームページやブログを作成して情報提供に努めている。ホームページは「こんな保育を」「各園の紹介」「子育て支援」「入園案内」等のタイトル別に分類され、カットや写真を交え、親しみやすいページ作りに配慮している。また園独自のブログでは毎日の子ども達の様子や食事の内容が写真を交えてタイムリーに更新されている。なお入園を希望する保護者向けには、「入園案内」のページに多摩市の入園手続きが掲載されている他、「こんな保育を」では、法人の理念が説明されている。</p> <p>見学者には「園のしおり」が配付され、保育園の情報を伝えている。子ども達の実際の活動や表情を含めて見てもらうことを考慮して、見学は午前9時から午後5時を基本とし、特に午前10時から11時までの間を勧めている。なお対応は総務保育士が行い、なるべく事前の電話連絡を入れてもらうよう依頼している。ただし保護者の就労等の都合も考慮し、不意の場合等でも可能な限りの対応を行うよう努めている。</p> <p>多摩市の保育園を利用する保護者の連絡協議会主催の「保育園入所説明会」(平成18年度は12月開催)に担当者を派遣し、保育園情報の提供に努めている。ここでも、「園のしおり」を配布するとともに、多摩市内全園の保育園情報が共通の様式にまとめられた「多摩市の保育園ガイド」も同協議会により作成されており、同様に配布されている。また、地域の親子に保育園を開放する「プレーメン」では広報誌を作成し、保育園に関する情報提供を行っている。「プレーメン通信」は年10回発行し、地域の健康センターや児童館、市役所等に常備されている。</p>		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ2		
2	サービスの開始・終了時の対応	
<b>評価項目1</b> サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
	◎あり ○なし	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>		
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスを軽減するよう配慮している
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援をしている
	◎あり ○なし	○非該当
	◎あり ○なし	4. サービスの終了時(就学を除く)には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をしている
	◎あり ○なし	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
サブカテゴリ2の講評		
<p>入園が決定した後、入園説明会を開催して保護者の方に、サービスの開始に向けた準備や心構えを伝えている。入園説明会では「入園のしおり」をもとに園長と調理担当者及び保健担当者が解説し、保育理念や基本的なルールの説明が行われる。また、その後には個別面談が行われ、それぞれの保護者からの不明な点や、食事や健康等に関する個別なケースでの説明が行われている。</p> <p>入園時の個人面談では、事前に保護者に記入を依頼した「保育予備調査票」「生活状況表」に基づき、その確認とニーズの把握が行われている。なお面談記録には生活の様子や食事、睡眠等の状況を記載欄が設けられている。また乳児においては、保育開始日等に親子で園生活に参加してもらい、家庭での食事援助や親子の接し方の状況把握を行っている。これらは保護者への食事メニューの周知や職員と保護者のコミュニケーションの場としても位置づけられており、家庭との継続的なつながりを持ったサービス提供を重視する園の思いがうかがえる。</p> <p>入園時に環境の変化が及ぼす子どもへの負担を考慮し、可能な限り不安やストレスの軽減に配慮した支援をすることや、3歳未満児については、クラス編成に少人数グループを採り入れるなど、子どもの状況をふまえた上での家庭からの移行を行っている。また、サービスの終了時においても、子どもや保護者の状況に応じてメールのやり取りをするなど、継続的につながりを持つ配慮が見られる。</p>		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	
評価項目1 必要に応じて、定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点( A )
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◎あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		
評価項目2 必要に応じて、子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた個別のサービス計画を作成している		評点( A )
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○非該当
◎あり ○なし	2. 計画を保護者にわかりやすく説明し、同意を得るようにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
◎あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	○非該当
【A+の取り組み】 ○あり ◎なし		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	評価項目3 必要に応じて、子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	◎あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	◎あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	【A+の取り組み】 ○あり ◎なし	
	サブカテゴリ3の講評	
	<p>子ども達の発達の状況把握の手段として、個人別記録と保健票を作成し、園として定めた手法により記録している。個人別記録では、「個人別月間計画と記録」にて、月間の計画や留意点、子どもの姿の振り返りが捉えられている。これらについては定期的な記録の周期を定め、「保育日誌」等の毎日の記録でも個々の子どもの記入欄が設けられている。加えて、家庭での子どもの様子の把握と保護者のニーズの収集のために、年1度の「個別面談」や要望に沿った「グループ面談」「クラス懇談会」を行い、直接的な保護者との意見交換の機会を設けている。</p> <p>保育園の理念に基づいて業務の手法等をまとめた「基本保育計画」を作成し、法人が経営する各保育園にて共通に活用している。その内容には、保育計画となる項目も設けられ、これに基づく計画として「年間保育計画」や「月間保育計画」(保育所保育指針でいうところの年間・月間指導計画)、児童票内の「個別計画」が作成されている。また、計画の一部はクラス懇談会で説明されるとともに、月に1度発行される各クラスだよりにもその内容が掲載されている。</p> <p>月の計画では、振り返りや気づきが翌月の計画に反映される記入形式の工夫が見られ、継続的な保育を行うための仕組みが見られる。またその記録からは、子どもの姿に応じ、適宜計画の変更を行って発達に即した保育を行っている様子がうかがえる。なお各書類については園長の定期的なチェック体制が取られており、クラス会議にて計画類の見直しを行う等、子どもの状況に則した改善も行われている。</p>	

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	
	評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>	
	評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	2. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に対策を検討し、対応している <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	3. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>	
	サブカテゴリ5の講評	
	<p>子どもに関する事情を外とやりとりするときには、必要が生じた場合には法に基づくもの以外は保護者の同意を得るようにしている。子どもへの接し方については、「基本保育計画」の中で「職員としての心がけたいこと」として、服装や身だしなみ、振る舞い、言葉遣い等配慮する点についてまとめている。「基本保育計画」は全職員に配付している。また年度当初の職員会議にてさらに具体的に職員として心がけたいことや子どもの接し方について資料を作成し、配布。職員間で共通理解を図っている。日常では毎日のミーティングで配慮する点等確認している。</p> <p>子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援として、園では布おむつを使用することになっているが、保護者が紙おむつを希望した場合には紙おむつにて対応している。子どもの羞恥心に配慮した支援として、プール時には側面にシェードを張り外部からの視線を遮るようし、5歳児の部屋にあるトイレについては扉をつけている。ただ、幼児棟1階部分のトイレ(主に3・4歳児が使用)には扉が設置されていないため、今後は1階部分のトイレに関しても、扉もしくはカーテン等で周囲の視線を遮り、さらなる羞恥心への配慮を行うことを期待したい。</p> <p>個人情報の取り扱いについては、保護者へホームページ・写真の掲載に関するアンケートを毎年実施し、意向を聞いている。ただ、保育室内では個人の記録を含め、取り扱いについて保護者との合意形成が望ましいと思われるところや、プライバシー保護の観点から見直しが望まれる事項が散見された。今後は子ども達のプライバシーの保護を含め、保育室内の整備を図るとともに、保護者の同意を得る必要があるものに関しては、その仕組みを構築されることを期待したい。</p>	

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ6	
6	事業所業務の標準化	
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <span style="float: right;">評点( B )</span>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	2. 手引書等は、職員の共通理解が得られるような表現にしている <span style="float: right;">○非該当</span>
	○あり ◎なし	3. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	4. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>	
	評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている <span style="float: right;">○非該当</span>
	◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる <span style="float: right;">○非該当</span>
	【A+の取り組み】 <span style="float: right;">○あり ◎なし</span>	

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している <p style="text-align: right;">評点( A )</p>	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	◎あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	◎あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	◎あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	◎あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている <p style="text-align: right;">○非該当</p>
	【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;">○あり</span> <span style="margin-left: 20px;">◎なし</span>	
	サブカテゴリ6の講評	
	<p>保育の手順や対応マニュアル等をまとめた「基本保育計画」が作成されている。同計画は職員が話し合って作成したもので、実際に現場で活用しやすい表記とするよう配慮し、内容として保育理念や子どもへの関わり方、遊びと活動、食育、保健安全、地域支援と貢献等が明文化され、パート職員を含む全職員に配付されている。これにより、保育の多くの部分での活用が期待されるが、今後に向け、定期的な見直しや現場での点検、また読み合わせや勉強会等の職員間の共通理解に向けた取り組みについて、さらなる検討を期待したい。</p> <p>起きてしまった事故やケガの検証、また危険と感じられた事例を明文化し、その後の保育に活用するための「インシデント報告書」を作成して、改善に向けた取り組みを実践している。また、「安全防災委員会」を立ち上げ、防災や防犯についての意識啓発を図るとともに、具体的な取り組みとしてお散歩マップの作成や救急救命講習会の開催等を行っている。</p> <p>職員間の情報の交換や問題解決、手法等の共有などのため、定期的な会議の機会が持たれている。園全体で行う保育会議と各クラスのクラス会議を月に1回行うとともに、法人内のバオバブちいさな家保育園と合同に行うリーダー会議を週1回、「合同職員会議」を半年に1回行っている。この他、ホームページ作成、給食会議、献立会議、園長総務会議なども行われている。なお各会議では必要に応じ、経験者や先輩、専門職からの助言も行われている。</p>	

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目
-----	--------

III サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

1	評価項目1 子どもの発達を促すための保育を行っている		評点( A )
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊び込める時間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 多様な表現活動や園外活動を計画している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 文化や習慣の違いなどを認め、互いを尊重する心を育てる工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 障害のある子どもの保育にあたっては、一人ひとりの障害の種類、特性に応じた保育ができるように配慮している	<input type="radio"/> 非該当
【A+の取り組み】		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	
評価項目1の講評			
<p>基本保育計画をもとに年間保育計画・月間保育計画・週案を立て、日誌に毎日記録をとっている。月間保育計画については、振り返りと子どもの様子及び次月の計画について話し合うとともに、年3回全職員による振り返りを行い、計画の進捗状況を確認している。ただし各計画の記載内容に関しては、一部に整合性の面で課題も散見された。今後は各計画の立案理由を明確にし、計画(P)→実践(D)→評価・反省(C)→見直し(A)のPDCAサイクルによる、よりよい保育の実践を期待したい。</p> <p>朝や夕方の延長時間帯等において、ブロック・ままごとの他、空き箱や裏紙を使用して制作活動等を自由に行える時間を設けている。また、近隣の公園への散歩の他、2歳児後半より年4～5回お弁当を携行しての園外活動を実施。3歳以上児はバスや電車等公共の機関を利用して社会を知る機会としている。また3歳以上児は絵の具で遊ぶ日(月1回)を設定、退職した職員の指導のもと、絵の具で思い切り遊ぶ機会を設けている。その他「歌の会」(月1回)ではホールで各クラスの歌の披露及び次月の歌の紹介をする等交流を図る機会としている。</p> <p>0・1歳児は個人別日誌を1か月ごと、2歳児は2か月ごとに、3歳児は年4回、4・5歳児は年3回記録する等、一人ひとりの子どもの状況を把握する取り組みを行っている。子ども達の様子については乳児・幼児別ブロック会議(月1回程度)及び保育会議(月1回)で報告、話し合いを行っている。また5歳児まで日誌には個人の記録をとる欄を設けているため、適時記録が残されている。ただ、日誌への記録方法については各クラスに任されているため、ばらつきも見られており、今後は日誌の書き方について統一性を図ることも検討されたい。</p>			

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
2	評価項目2 栄養バランスを考慮したうえで、おいしい食事を出している	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている
	◎あり ○なし	2. 子どもの状態にあった椅子・テーブル等を用意している
	◎あり ○なし	3. 食物アレルギーや文化・習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している
	◎あり ○なし	4. 快適に食事ができるように環境面でも配慮をしている
◎あり ○なし	5. 【0歳児を受け入れている保育所のみ】 乳児の授乳や食事に関しては、乳児一人ひとりの状況やリズムに合わせて行っている	
【A+の取り組み】 ○あり ●なし		
評価項目2の講評		
<p>自然の風土に根ざした食生活を目指し、献立はだしをとった和食を中心に、無添加無着色・旬の食材を取り入れ、なるべく加工食品を使わないよう工夫している。食材は山形の農家と提携して米や豚肉等を産地から直送し、おやつもほとんど毎日手作りで提供している。また献立会議を月1回実施、各クラス担任及び調理担当者が出席して喫食状況・献立への要望等を話し合っている。離乳食会議(月1回)では、担当職員と調理担当者により離乳食の進捗状況の把握をしている。また日々の保育の中でも体調により食事内容を変更する配慮も積極的に行っている。</p> <p>アレルギー児については入園時面談にて把握し、医師の診断書をもとに除去食を提供している。またアレルギー一覧表を作成して各クラスに配付し、共通理解を図るとともに、提供する場合にも皿を別にして名前を書いたクリップではさみ、調理担当者が口頭で除去内容を説明、食事提供の際も2人の職員が必ず確認をとって間違いがないよう工夫している。また除去食は通常食との違いがわからないよう、見た目を同じようにする配慮も行っている。また症状の度合いによっては個別ノートを作成、調理担当者と保護者と密な連絡を図りながら対応をしている。</p> <p>3歳以上児の子ども達に食育の一環として、太刀魚や秋刀魚等を切り身でない状態で紹介し、魚を知る機会としている。また天気の良い日にはベランダや外のテーブルを利用して食事やおやつを楽しんでいる。配膳については、4・5歳児は当番活動として当番がよそって食事を配る機会を設けている。また3歳未満児は、おひつや鍋等で調理室から運び、子どもの目の前で盛り付け、個別に対応している。乳児に関してはゆるやかな担当制をとり、担当の職員が子どもの状況に応じて食事を提供している。母乳希望にも対応している。</p>		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
3	評価項目3 子どもが心身の健康を回復・維持するための支援を行っている <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの健康状態を定期的に記録し、把握している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 乳幼児突然死症候群(SIDS)、感染症等を予防をするしくみがある <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 医療的なケアが必要な子どもに対し、支援できる体制を確保している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>	
【A+の取り組み】 <span style="margin-left: 100px;"><input type="radio"/>あり <input checked="" type="radio"/>なし</span>		
評価項目3の講評		
<p>健康状況の把握には「健康票」を作成して、定められた周期とフォームにより、過不足のない対応に努めている。また歯科検診(年に2回)・内科検診(0歳児は月1回 他は年2回)、全園児を対象としたぎょう虫検査を年1回、身体測定を0歳児は毎月、1歳児は年5回、2歳児は年4回、3～5歳児は年に3回行っている。また5歳児は看護師による視力検査を年に1度行っている。これらで得られた結果は、必要に応じ保護者に伝えられ、加療を勧めている。感染症の発生状況などは「保健だより」によって通知される。</p> <p>SIDS(乳幼児突然死症候群)の防止に向けた取り組みとして、「睡眠チェック票」を作成して10分間隔の呼吸チェックを行うとともに、対象となるクラスにはSIDSに関するポスターを掲示して、保護者への情報提供にも努めている。また感染症の発生時には玄関ホールの掲示板にて情報提供し、家庭でも配慮をしてもらうよう注意喚起を図っている他、ほぼ毎月発行する「保健だより」においても、保護者にわかりやすい説明と情報提供に努めている。</p> <p>疾病や感染症等の健康に関する保護者からの相談に対しては、単に過剰な心配や保護者や子どもの不安をあおるようなことが起きないよう、適切なアドバイスの実施を心がけている。また、日頃の送迎時の会話や連絡帳等で寄せられた相談には、看護師が対応することを基本としているが、健診日にはあらかじめ連絡帳等で寄せられた内容について、直接医師がアドバイスを行う仕組みを作っている。</p>		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
4	評価項目4 園内の生活が、子どもたちにとって楽しく快適なものになる工夫を行っている <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが保育所の生活を楽しめる工夫をしている(誕生会、季節の行事など) <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 園内は快適で落ち着ける環境・空間にしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. お昼寝は子どもの状況に合わせる工夫をしている <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目4の講評		
<p>園の行事としての「お楽しみ会」では2歳以上児が劇を披露した後、食事はお楽しみメニューとし、3歳以上児はくじ引きで席を決めてバイキング形式で食べ、おやつは自分達でトッピングしたケーキとするなど、楽しく食事ができるようさまざまな工夫をしている。「新米を食べる会」では3歳以上児は近隣公園で飯ごう炊飯を行い、公園で豚汁と炊き立てのご飯を食べる機会としたり、また12月に行う「野焼きパン」、2歳以上児が外で秋刀魚を焼いたり、杵と臼でもちつきを楽しんだりする等、季節に応じた多彩な行事を設けている。</p> <p>年長児は提携する農家での2泊3日合宿を実施。合宿に向けた準備として、年度当初から合宿先の農家の様子を伝えたり、食材を通じた意識啓発を行ったりなどしている。合宿では豚小屋での仕事の様子の見学、りんご畑の袋かけや芋掘り、川遊びやぶどう狩り、田んぼの見学等、多彩な自然体験とともに、食卓に食べ物が並ぶまでに多くの人の力を要すること等を身をもって知る機会ともなっている。また仲間との共同生活により、協力することの大切さも学べるようにしている。年中児も園でのお泊り保育を1泊2日で行っている。</p> <p>2階の乳児の部屋では天気の良い日にはベランダに出て日光浴や水遊びを楽しむことができる。また1歳児については個人別に保護者が手作り箱・絵本・人形を作成、子ども達が愛着をもって日頃の活動の中で使用することができるよう配慮している。年長児は毎年大型木工を制作、園庭に設置している。またアヒル・ウサギ・チャボ等を飼育し、朝年長児当番は野菜切りを行ってチャボの餌やりを行う。また園庭では野菜を栽培する他、園庭の木の実を収穫して食べたり、チャボの卵で卵料理を作ったりする等、生活に結びついたさまざまな体験を行っている。</p>		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
5	評価項目5 保育所と家庭との交流・連携を緊密に行っている	
	評点( A+ )	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 保護者などが常時参観できるしくみがある
	◎あり ○なし	2. 便り、クラス別保護者会などを活用し、子どもの保育所での生活ぶりを家庭に紹介している
	◎あり ○なし	3. 保護者の事情に応じて、柔軟な対応をしている
	◎あり ○なし	4. 保護者が保育所の行事などに参加しやすい工夫を行っている
◎あり ○なし	5. 保護者からの相談に応じる体制を整えている	
【A+の取り組み】 ◎あり ○なし		
卒園した子どもが思春期の難しい時期を迎える前に、再度園と保護者の関係の構築を行い、ともに子どもの育ちを見守っていくという趣旨のもと、「中学入学を祝う会」を実施したり、職員と保護者主催の「バオバブフェスタ」で「20歳の会」を開催し、新成人の卒園生の同窓会の場としたりする等、在園中だけでなく、卒園後も継続して家庭と連携し、子どもの育ちを側面から支援していく取り組みを行っている。		
評価項目5の講評		
<p>連絡帳を5歳児まで実施し、日頃の様子を伝えるとともに、3歳以上児は玄関ホールに、3歳未満児は各クラス入口に掲示板を設置、毎日のクラスの様子を報告している。また給食室前には毎日の調理サンプルを展示するとともに、自由に持ち帰ることができるレシピも常備している他、食育活動(写真・コメント付)の冊子を設置し、いつでも閲覧できるようにしている。急な延長保育に対しては柔軟な対応に努め、補食も提供できるように配慮している。園行事についてはなるべく多くの保護者が参加できるよう、夜間や日・祝日に実施するようにしている。</p> <p>面談は随時可能である他、年1回グループ面談や個人面談を実施し、園や家庭での様子を話し合っている。グループ面談は保護者が参加できる時間帯を選択できる等工夫をしている。また家庭訪問も状況に応じて実施しているとのことである。保育参加は各家庭年間で1回体験できることとし、食事まで子どもと一緒に過ごす。クラス懇談会は年3回程度実施、子どもの成長や行事の説明、新年度に向けての話し合い等を行う機会としている。また乳児は各自の箱・絵本・人形を保護者が園にて作成、職員・保護者同士の親睦を深める機会にもなっている。</p> <p>保護者と職員主催の「バオバブフェスタ」ではバザーを実施。手作り玩具・ゲームコーナーや各クラスでの出店出展の他、卒園児の保護者も出店を設けて参加する等、子どもを楽しませる内容を盛り込んだお祭りの場としている。また「20歳の会」を同時開催。20歳になった卒園生が同窓会を行う機会としている。要望や意見収集の手段として5歳児の合宿時や園行事参加者に感想を聞いている。意見箱も設置しているが、どのように意見が反映されるのか明示されていないため、さらなる活用を図るべく、周知の仕組みの構築が今後期待される。</p>		

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
6	評価項目6 虐待防止の取り組みや育児困難家庭への支援を行っている	
	評点( A )	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
	●あり ○なし	2. 職員が、虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや虐待の事実を把握をした際には、組織としての速やかな対応を決定する体制を整えている
●あり ○なし	3. 虐待を受けている疑いのある子どもと保護者の情報は、児童相談所、子ども家庭支援センターなど関係機関に照会、通告を行い、その後も連携できるような体制を整えている	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
【A+の取り組み】		○あり ●なし
評価項目6の講評		
<p>虐待を発見した場合には園長に報告し、園長が関係機関の職員と相談し対応することになっている。また「基本保育計画」中において、困難な問題を抱えた家庭への支援や児童虐待の疑いを察知した場合については、担任だけの判断で処理せず園長に相談すること等を記し、職員への周知を図っている。ただし組織的な内部の啓発活動としては、個人参加の研修内容の報告と資料の配付にとどまっており、今後は組織としてさらなる理解を深め、虐待の早期発見に努めるための取り組みが図られることを期待したい。</p> <p>気になるケースについてはリーダー会議にて報告し、職員の共通理解を図る場としている他、配慮を要する事例が生じた場合には、市の子ども家庭支援センターに連絡し、同センターを中心にケース会議を開催するなどの対応を図るようにしているとのことである。今後は連携や連絡体制を明示した園独自の組織図の作成等の工夫により、全職員へ連携体制についての周知がより確実に図られることを期待したい。</p> <p>各クラスの懇談会において子ども達のクラスでの様子を伝えるとともに、子ども達の発達や育児についての話し合いをもち、保護者と共通理解形成に努めている。また保護者や園主催の子育て講座等の開催による保護者の育児力向上や、保護者会や園主催の親睦会・懇談会等での保護者間及び職員との情報交換など、交流の場を積極的に設定している。</p>		

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている <span style="float: right;">評点( A )</span>	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者が要望する地域の情報を利用しやすいかたちで提供している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保育所の活動や行事に地域の人の参加を呼びかける等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している <span style="float: right;"><input type="radio"/>非該当</span>
【A+の取り組み】 <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし		
評価項目7の講評		
<p>玄関ホールには掲示板やチラシを配置し、子育てに関する地域の情報を必要に応じて収集できるようなスペースとしている。また、可能な限り地域の人々の行事への参加を呼びかけ、子どもと地域、あるいは年代を越えた関わり合いに向けた取り組みを行っている。「バオバブフェスタ」では地域からの参加も募り、卒園児の保護者が出店を設けて参加している。また「バオバブ祭り(夏祭り)」では子どもたちがみこしを担いで地域をねり歩き、地域の人々とのふれ合いにつながっているほか、「プレイデー(運動会)」など卒園児との交流の機会も設けられている。</p> <p>その他、提携している農家の方が来園して行事に参加したり、中高生を始めとする卒園生がボランティアとして来園したりして、子どもたちが職員以外の人と交流する機会がもたれている。なお、それぞれの機会は、もちつきや食育についてのお話、絵本を読み聞かせる等のカリキュラムとして捉えられており、「交流会」という枠を超えた、自然な形での実現が特徴的である。</p>		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	生活を通して生きる力を育む保育の実践
	内容	年長児は毎年大型木工を制作、作成されたものは園庭に設置し、子ども達の遊び道具として親しまれている。また生き物と関わる活動の一つとして、飼育しているチャボの餌となる野菜を年長児が切ったり、チャボの産んだ卵で卵料理を作ったりしている他、園庭に植えた果樹の実や野菜を食べる等、日頃の保育の中で生活と結びついた実体験ができる。また提携する農家へ合宿に出かけての、豚小屋での仕事の様子の見学、りんご畑の袋かけや芋掘り、川遊びやぶどう狩り、田んぼの見学等、多彩な自然体験を通して、食への感謝の気持ちと生きる力を育てている。
2	タイトル	園としての基本事項を明示する「基本保育計画」の整備
	内容	「基本保育計画」を作成し、保育を行うための諸事項を明確に定め、これを非常勤を含む全職員に配付して、園として共通かつ職員間で共有されたサービスの提供に努めている。内容には「基本的な保育理念と保育の目標」から始まり、遊びと活動、食事と食育、保健安全、子育て支援と社会貢献、計画と記録、研修、職員同士の関係と園の運営等の項目に分類され、明文化されている。なお、これらの取り組みの中でも、保育現場では子どもの発達やその場の状況に応じた適切な判断の重要性を踏まえ、職員一人ひとりの自主的な判断を損なわないように努めている。
3	タイトル	つねに向上を意識した問題点の掘り起こしと改善への迅速な対応
	内容	4園合同の内部研修会(職場研修会)ではさまざまなテーマで行われているが、「子どもの命を守り、成長・発達を促す保育とは」や「何のために記録を書くか」など、当園や法人内の他園での改善テーマを中心に設定し、外部から専門家を招くなどして研鑽に努めるとともに、早期の問題点解決に取り組んでいる。また、必要な場合には繰り返して研修を反復するなど、問題点を把握して法人全体で迅速に対応しようとする意識が強く見られる。このことは組織マネジメント、サービス提供すべての分野に共通して見られ、今後のさらなる展開に期待したい。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	「基本保育計画」のさらなる活用と実践及び記録手法の標準化
	内容	各計画類は「基本保育計画」に基づき策定されているとのことであるが、計画間の整合性等については課題も散見された。今後は「基本保育計画」中の「計画について」の項目に列記されているように各計画のもつ意味を再度確認し、PDCAサイクル(計画から実践、評価・反省をふまえた見直しまでの一連の流れ)をさらに効果的に機能させながら保育の実践が行われることを期待したい。また、記録の取り方には一部に職員間のばらつきが見られ、より確実な情報共有に向け、記録方法について今一度見直しを図ることを検討されたい。
2	タイトル	中長期計画を含めた関連性の確立された計画類の策定
	内容	組織においてはミッション・ビジョンを示した経営理念と、それを実現するための中長期計画、年度事業計画、そして経過を実行するためのアクションプランが明確にされている必要がある。また、これらの一連の計画を明示することは、求められる人材像を計画にすることにもつながっていくものである。現在では年度事業計画は策定されているが、一貫性のある計画類の整備を、今後検討して策定に取り組んでいくことが望まれる。
3	タイトル	安全確保及び個人情報・プライバシー保護に向けたさらなる取り組み
	内容	各種マニュアル・報告書の作成、「安全防災委員会」など、子ども・保護者の安全確保に向けた取り組みを行っているが、明確化された改善事項について、対症的な取り組みにとどまらない、期日及び改善内容を明示した計画的な取り組みを期待したい。また個人情報保護に関し、規程の整備や保護者との承諾書の取り交わしを行っているが、保育室内では個人の記録を含め、取り扱いについて保護者との合意形成が望まれる部分や、見直しが望まれる事項が散見されており、管理方法の検証や保護者との認識共有が望まれる。